

速報解説

2023年3月16日

サウジアラビアとイランによる 外交関係正常化

JIME-IEEJ
JAPAN

一般財団法人
日本エネルギー経済研究所
中東研究センター

主任研究員

近藤 重人

shigeto.kondo@jime.ieej.or.jp

報告内容

1. はじめに
2. 合意に至った経緯
3. 合意に至った背景
4. 合意について
5. 秘密条項は交わされたのか？
6. サウジアラビアの反応
7. サウジアラビアはなぜ合意したのか？
8. おわりに

1. はじめに

- サウジアラビア、イラン、中国の3か国は3月10日、サウジアラビアとイランが2か月以内に外交関係を回復することなどで合意したと発表
- 両国は2016年1月に国交断絶してから7年以上が経過していた
- 本報告の問い
 - 今回の合意に至った経緯や背景はどのようなものか？
 - 特にサウジアラビアが今回の合意を結んだ理由は何か？
 - 今回の合意が両国関係、地域情勢、国際社会に与える影響は？
 - 中国が仲介したことでどのような影響が考えられるか？

2. 合意に至った経緯

- 2016年1月：国交断絶
 - サウジアラビアがシーア派信徒を処刑、それに反応してイランで暴徒がサウジ大使館などを襲撃、サウジアラビアがイランとの外交関係を断絶
- 2021年4月～2022年4月：イラク・オマーンによる仲介
- 中国による仲介
 - 2022年12月：習近平国家主席のサウジアラビア訪問
 - 2023年2月：イランのライースィー大統領の中国訪問
 - 2023年3月6日～3月10日：北京における協議
 - 3か国は協議していることを発表時まで公にしなかった
 - ✓ サウジは米国には協議していると伝えていた
- 考察
 - 中国はイラクとオマーンの協議に最後の1ページを加えた
 - サウジは中国がイラク等よりもイランに対する影響力が強い点を評価か

3. 合意に至った背景

- サウジアラビア
 - イランとの緊張緩和：2019年9月の攻撃のような事態の再来の防止
 - イエメンのフーシー派による攻撃防止におけるイランの役割への期待
 - 米国を焦らせる意味も？ 経済成長に集中するため？
- イラン
 - 外交関係回復による孤立状態からの脱却（対イラン包囲網に楔）？
 - 中国から政治（イラン核合意交渉など）・経済面での支援を期待？
- 中国
 - エネルギー安全保障や中東市場の確保？
 - 政治的な論点（台湾、人権を含む）をめぐる米国との対立・競争における立場の向上？ グローバルサウスでの影響力強化？

4. 合意について

- 共同声明で合意したこと

- サウジアラビア王国とイラン・イスラーム共和国が2か月以内に外交関係を再開し、大使館や公館を再開することに合意し、国家の主権尊重と内政不干渉を確認すること。両国の外相がこれを実行に移し、大使の再派遣を手配し、二国間関係強化の方法を協議するために会談する

- 考察

- 主権尊重や内政不干渉など一般的な原則で合意したのみ
- 外交関係の再開についても、今後2か月以内に両国の外相がこれを実行に移すために会談するとされており、その会談の結果次第
- この共同声明の裏でどのような秘密条項が交わされたのか、あるいは交わされなかったのかという点が重要
- 中国は合意をどのように保証するのか？

5. 秘密条項は交わされたのか？

- 真偽は不明であるが「秘密条項」は交わされたとみられる
- 一部メディアが報じた「秘密条項」の内容
 - サウジアラビアは、イラン・インターナショナルのようなイランを不安定にしようとするメディアに資金を提供しないことを誓約する」
 - サウジアラビアは、人民モジャヘディン組織（MEK）、イラクに拠点を置くクルド人グループ、パキスタンで活動する武装勢力など、イランがテロリストとして指定する組織に資金を提供しないことを約束する」
 - イランは、その同盟組織がイラク領内からサウジアラビア領を侵犯しないようにすることを約束する
 - サウジアラビアとイランは、地域の紛争、特にイエメンの紛争を解決し、同国の恒久的な平和を確保する政治的解決を図るため、あらゆる可能な努力を払うことを目指す。

6. サウジアラビアの反応

- フェイサル外相（3月12日）
 - イランとの国交回復の合意は「対話を通じて立場の違いを解決したい」という両国の意思を確認するものだが、「二国間のすべての違いを解決する」ことには**つながらない**
- アブドゥッラフマン・ラーシド・シャルクルアウサト紙前編集長（3月12日）
 - 「2001年にサウジアラビアと和解した後すぐに悪い状態に後戻りさせたイランの本気度を多くの人が当然**疑問視**している」
- フェイサル・アッバーズ・アラブニュース紙編集長（3月13日）
 - 「40年にわたるイランの敵意と地域の安全保障を損なうための行動が一夜にして消えるとは**思えない**」
- 考察
 - 今回の合意がすべての問題を解決するという見方は示していない
 - 合意を**歓迎**するもののまだイランへの**警戒感**をにじませる
 - 合意の真の成功は今後のイランの行動次第といった論調

7. サウジアラビアはなぜ合意したのか？①

- これまでの直接協議におけるサウジアラビアの姿勢
 - 直接協議の存在を認めようとせず、認めたとしても大きな成果はなかったと控えめな発言で留めていた
 - ✓ 会談の存在を積極的にアピールしてきたイランとは対照的
 - ✓ 外交関係の再開の前提としてイランによるフーシー派支援停止などを求めていたためと一般に分析されてきた
- 今回のサウジアラビアの姿勢
 - 「2カ月以内の外交関係の再開」に合意 → 大きな譲歩
 - サウジアラビアはなぜイランとの外交関係の再開に合意したのか？

7. サウジアラビアはなぜ合意したのか？②

- サウジアラビアはイエメンに関する要求で満足する回答を得たか？
 - 秘密条項の中身はわからないが、サウジアラビアがイエメンに関して満足する合意を得た可能性は低い
- 米国を焦らせるため？
 - 合意発表前日の3月9日には、サウジアラビアがイスラエルとの外交関係樹立の条件として、安全保障の提供と原子力プログラムへの支援と武器売却に関する制約緩和を求めていたとの報道（WSJ、NYT）
 - ✓ サウジアラビアによるリークか？
 - イスラエルにとって宿敵のイランおよび米国が対立している中国と近づくことで、安全保障や原子力分野での支援を渋る米国を焦らせる意味もあったか？

7. サウジアラビアはなぜ合意したのか？③

- イランの軍備拡張に抗しきれないと判断？
 - イランの巡航ミサイル・ドローンの正確性・破壊力については2019年9月のアラムコ施設への攻撃で痛感
 - イランのウラン濃縮のレベルは上がりつつある
 - こうした中、米国がサウジアラビアに十分な安全保障を提供できないのであれば、ある程度敵であるイランと融和するしかないと判断か？
- 経済改革に集中するため？（平和の配当）
 - 巨額の投資を進める中、国内が攻撃にさらされるリスクを減らしたい
- 中国から何かを獲得するため？
 - 今回の合意に紐づいて中国が何かサウジに提供するという話は出ていない
 - ただし、中国がイランに対してレバレッジを有していることをサウジは評価

8. おわりに

- サウジアラビアはイランと接近し、外交関係も回復するかもしれないが、同国との懸案がすべて解決するとは**考えていない**
- サウジアラビアが仲介役に中国を求めたのは、同国が**大国であり**米国を焦らせることができるからか。イラクやオマーンにそれはできない
- 大国間競争に巻き込まれるサウジではなく、大国間競争を**利用する**サウジ
- ただし、イランから十分な譲歩を引き出せる**保証はなく**、また米国がサウジの要求を**無視し続ける**可能性もあり、その場合サウジは**外交敗者**に
- 米・イスラエルによる対イラン包囲網の試みは場合によっては**後退か？**
- 中国の中東における外交的な影響力は間違いなく上昇したが、それがすぐに米国や日本の対中東関係に影響を与える**訳ではない**。ただ、長期的に外交的な影響力が**軍事的な影響力**（シーレーン支配）に転換すれば、エネルギー安全保障上の影響は大きい